



CONTENTS

■平成30年度スポーツ振興支援事業報告書
■平成30年度地域振興事業報告書

■奨学生の声紹介
■平成31年度スポーツ振興支援事業並びに地域振興事業募集中

シリーズ 第27回

この本をあなたにも薦めたい
「温かく人と経営を見つめる82の視点」
著者：加藤健治

スポーツ振興支援 & 地域振興支援

平成30年度スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業支援団体からの報告書の一部です。

カヌー

初の「全国ジュニアカヌースラローム 揖斐川大会」

岐阜県カヌー協会 会長 **山田通博**



平成30年9月16日(日)に岐阜県揖斐川特設カヌー競技場において、「第1回全国ジュニアカヌースラローム 揖斐川大会」が開催されました。全国から40名の18歳以下の選手が参加し、小学生、中学生、高校生のクラスにわかれ競い合いました。カヌー競技は、溪流や湖沼でカヌーを操り、パドルで漕ぎながらスピードや得点を競い合います。この大会は、子供たちのカヌーへの興味・関心を深め、その技術・理解を向上させると同時に、カヌーを通じて心身を鍛え、責任感とフェアプレイ精神を持った人間の育成を目的に、国内初のジュニア選手のみを対象としたカヌースラローム競技会として開催されました。競技会場である揖斐川は、9月4日に岐阜県に最接近した台風21号と秋雨前線による降雨の影響で水位が上昇し激流となった厳しい状況にありました。また経験の浅い小学生など多くの選手がカヌーを何度も転覆させながらも、コースに果敢に挑戦しました。表彰式では、賞状とメダルを掲げた選手をはじめ、互いの健闘をたたえ合いました。岐阜県カヌー協会としては、一から大会を作り上げていく難しさも感じましたが、ジュニア選手たちが勇気を持って激流に挑む姿に感動もひとしおでした。来年以降も同様の大会を開催していきたいと考えております。皆さまの温かい応援をよろしくお願いいたします。

マーチング

目指すはマーチングバンド日本一!

なぎなた 新しい刃先で目指す「全国大会団体優勝」

岐阜県立岐阜商業高等学校 吹奏楽部 顧問 **和田隆明**

県立岐阜商業高等学校吹奏楽部は、平成30年12月16日(日)さいたまスーパーアリーナで開催された「第46回マーチングバンド全国大会」において、高等学校中編成の部で2年連続金賞受賞、全国3位の成績を収めることができました。大会での作品は、世界規模で大ヒットしたヒュー・ジャックマン主演のミュージカル映画「ザ・グレイティスト・ショーマン」を取り上げました。主人公とその仲間たちが繰り広げる華麗で豪華な、そして切ないストーリーを通して、本当の自分の姿をマーチングで余すことなく表現することができました。本校は、県内では数少ないコンサートバンドとマーチングバンドを両立して活動している吹奏楽部です。1年生24名、2年生32名、3年生32名の総勢88名の部員数で、音楽活動を通して心と技を磨き、親しまれるバンドを目指し、日々練習に励んでいます。平成30年8月に開催された「全日本吹奏楽コンクール岐阜県大会」においても、高等学校A編成の部で金賞を受賞し、東海大会に進出することができました。日本マーチングバンド協会が主催する大会では、華やかなショーの要素が強いのが特徴で、出場する団体の中にはマーチング専門に活動している、文字通りのマーチングバンドも存在します。マーチングは歩きながら様々な形を表現し演奏するため、コンサートで一般的に使用される楽器とは異なる楽器を使用します。今年は伊藤青少年育成奨学会からの支援金でコンサート用ホルンとマーチングユーフォニアムをそれぞれ購入いたしました。平成30年12月26日(水)に岐阜メモリアルセンターで愛ドームで「凱旋報告会」を、平成31年1月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり長良川国際会議場で「第30回定期演奏会」を開催しました。1年間の集大成として開催した定期演奏会では、満場の来場者の方でマーチングバンド全国大会の演目も披露させていただきました。定期演奏会をもって3年生は卒部いたしました。新体制となってもマーチングバンド日本一を目指し、コンテストや地域行事へと積極的に参加してまいります。



岐阜県立大垣商業高等学校 なぎなた部 顧問 **大橋絵美**

大垣商業高等学校なぎなた部は、創部30年を迎え、男子1名、女子7名の総勢8名で、全国高等学校総合体育大会(通称、インターハイ)での団体優勝を目指し、文武両道のもと体力と礼儀作法を身に付けるべく日々稽古に励んでいます。岐阜県でなぎなた部がある高校は、当校と岐阜県立大垣養老高等学校の2校です。平成30年8月5日(日)から三重県の津市久居体育館で開催された「平成30年度全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会」には当校が出場いたしました。8月26日(日)和歌山県の九度山文化スポーツセンターで開催された「幸村(ゆきむら)杯第3回全国高等学校なぎなた選手権大会」では、当校3年生男子部員が、二連覇こそ逃したものの、第2位の戦績を残すことができました。彼は、高校1年生で臨んだ第1回大会では第3位の戦績を収めています。伊藤青少年育成奨学会からいただいた支援金は、なぎなたの刃先の購入にいたしました。当校なぎなた部では、早朝7時から朝練習、放課後は3時間の稽古を行っています。また、週末は県外への遠征を繰り返しています。なぎなたの刃先は、竹でできており、割れやすく、また、反りも段々と無くなります。今回、ご支援をいただいたことで、正しい反りの刃先で思う存分、稽古できるようになりました。平成31年1月13日(日)、当校で開催された「岐阜県高等学校新人なぎなた競技大会」では、個人、演技、団体の女子3種目全てを当校選手が制することができました。今後も、大垣商業高等学校なぎなた部は、礼節を重んじながら、インターハイ団体優勝を目指し、日々稽古進んでまいります。これからも応援をよろしくお願いいたします。



自転車 春の選抜、夏のインターハイを目指す!

岐阜第一高等学校 自転車競技部 顧問 **松村光浩**

岐阜第一高等学校自転車競技部は、「自転車競技を通じて競技力と思考力の強化を図り、充実した知識と関わる能力を獲得する」を部の方針に掲げ、活動しています。平成24年に女子競輪が「ガールズケイリン」として復活し、国民体育大会では平成29年の岩手大会から、全国高等学校総合体育大会(通称、インターハイ)では平成30年の東海総体から女子の自転車競技が正式種目となりました。本校においても、平成28年4月に男子校から男女共学校となり、現在では男子20名、女子6名の部員となっています。平成30年8月4日(土)から静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターで開催された「平成30年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会」では、女子ケイリンで当校女子部員が4位に入賞しました。男子も奮闘し、男子1キロメートルタイムトライアルで5位に入賞しました。清流の国ぎふは、山も河川も多くあり、堤防道路や山間部など自転車で行くのに大変良い環境です。また、県内には岐阜競輪場と大垣競輪場とがあり、本校自転車競技部も大垣競輪場で練習をさせていただいております。しかし、競技用自転車は本場、欧州製の1台50万円を超えるような高価な製品ばかりで、入部を断念せざるを得ない生徒もいます。この度伊藤青少年育成奨学会からご支援をいただき、トラックレーサーを購入することができました。自転車競技は一見、忍耐とスタミナを重要とする競技に見えますが、戦術の駆け引きや相手の考えを読み取る力と、自転車を日頃から整備し、摩擦やロスがより少ない状態にしておく整備力が必要とされ、多面的な力を養うことができる競技です。部員たちは現在、平成31年3月に福岡県と熊本県で開催される「平成30年度全国高等学校自転車競技大会」での春の全国選抜大会に向けてトレーニングに励んでいます。また、2019年夏の全国高等学校総合体育大会自転車競技大会は沖縄県で開催されます。部員たちは長期的な目標をもって取り組んでいます。引き続き、皆様からの応援をよろしくお願いいたします。



合唱 新調した制服で、堂々と歌声を披露

恵那市少年少女合唱団 育成会会長 梅田恵美

恵那市少年少女合唱団は、岐阜県では草分けとして昭和47年に結成しました。現在は、小学生20名、中学生5名、高校生6名の男女31名で活発に活動しています。

恵那市市民会館音楽室を拠点に毎週土曜日に練習し、毎年、恵那市合唱フェスティバル等に出場し好評を博しています。また、恵那市内の老人ホームを訪問し、合唱を通して交流を深めたり、恵那市中央図書館天の川イベントなど恵那市内イベントでもコーラスを披露することで、地域とのつながりを大切にしてきました。

当合唱団には、現在高校3年生の女子団員が2名在籍しており、平成31年3月に卒団を迎えます。彼女たちは、部活動や受験の合間をぬって練習に参加し、常に後輩団員を良い方向へ導いてくれました。小学2年生から11年間在籍していますが、その間には、平成27年4月には恵那文化センターで開催した「創立45周年記念公演」を中心として成功させました。しかしながら、当合唱団の制服は小学生女子用であったため、中学生、高校生に合うサイズは無く、中高生や男子には学校の制服で舞台上に立ってしまっていました。さらに、団員制服の劣化も進んでいたことから、伊藤青少年育成奨学会からいただいた支援金で新調いたしました。

卒団を迎える二人のために学校の制服ではなく仲間とともに合唱団の制服で最後の舞台を終えてほしいという思いに、地元の衣料品店にもご協力いただきました。平成30年11月23日(祝)長良国際会議場で開催された「岐阜県少年少女合唱フェスティバル」には、真新しい制服を着て、自信をもってハーモニーを披露することができました。

今、団員たちは、平成31年3月に恵那市文化センターで開催される「再びの恵那第九」での恵那第九特別オーケストラとの共演に向け、「BELIEVE」と「花は咲く〜NHK 東日本大震災復興支援ソング〜」の練習をはじめたところです。団員たちは期待と不安でいっぱいですが、新しい制服を着て、誇らしく舞台上に立てられるはずです。

今回、新調させていただいた団員制服は、それぞれに成長していく団員が引き継ぎ、大切にに使っていただきます。これからも地域とともに、恵那市青少年の健全な育成の場として尽力する所存です。今後ともお力添えをお願いします。



環境プロジェクト 古墳測量を受け継ぐよろこび

岐阜県立岐阜農林高等学校 環境プロジェクト部 教諭 福井義人

岐阜農林高等学校環境プロジェクト部は、当校環境科学科の1年生から3年生まで全員が加入している部活動です。平成25年度から夏休みや冬休みを利用して、岐阜県本美市にある船木山古墳群の測量・埋蔵物調査に取り組んでいます。船木山古墳群は、7世紀までの約400年以上古墳が造られ続けた東海地区最大級の古墳群です。鏡や装飾大刀などの豪華な副葬品も多数出土しています。伊藤青少年育成奨学会からの支援金により、今年度、測量機の「自動整備レベルプレーナ」を購入いたしました。以下は部員による活動の報告です。

「船木山古墳測量調査に参加して」 部員 手塚結和

夏休みに船木山で古墳測量に参加した。オートレベルと平板測量を行い、私は平板測量を担当した。実際に船木山に登ってみると予想より急斜面で作業は難航した。

担当した64号墳は、今まで前方後円墳だと思われていた。実際に測量を進めて古墳の形を等高線で描いていくと、後方が角張った形が現れて、前方後方墳の可能性が浮上した。造られた推定年代は更なる古くなるのが分かった。自分たちの行った測量が、年代の推定にも繋がることがわかり、凄くやりがいを感じた。

さらに参加した「ふるさと学習ロマンプロジェクト」では、小中学生や一般の方々と一緒に64号墳の測量を行った。自分たちがやっていることを人に説明することは思ったより難しく、ちぐはぐな説明になってしまった。それでも小中学生たちは測量機械をのぞきこんだりして楽しそうだった。また、金蔵探知機を使った埋蔵物調査では、宝探しをしているわくわく感が高まり、みんな楽しんでくれた。測量した平面図が電子トレースされて完成したときには達成感を感じた。船木山の古墳調査は、290基中、8基しか終わっていないが、今後も後輩たちが調査を継続して、いつか岐阜県や国の文化財に登録されることになればいいと思っている。



文化部

岐阜県立岐阜聳学校 文化部 顧問長 加納和歌子

岐阜聳学校文化部は、美術、手芸、音楽のグループに分かれ、各団員が興味・関心のあることに向かい、自分自身の考えや内面を表現しようと制作に取り組んでいます。

美術グループに所属する部員から写真制作に取り組みたいとの申し出があっても、これまでは、部員が自由に使用できるカメラさえもなく、写真による表現に挑戦することができませんでした。しかし、この度の伊藤青少年育成奨学会から支援金で、生徒が主体的に写真制作に取り組める機材一式を整えることができました。

部員たちは「美しい瞬間」をテーマに制作に取り組んでいます。一眼レフデジタルカメラは、風が吹いた時の細やかな葉の動きや、光と影の加減等の狙った瞬間を捉えることができます。ズームレンズを使えば、普段はあまり気がつかない、目が届かない場所にもレンズを向けることができます。部員たちの表現の幅を広げることが可能になるものと考えています。

部員たちからは、「写真を撮ることが楽しい。もっとカメラについて勉強し表現力を上げたい」という感想が寄せられています。今後は基礎を学びながら、自己の表現について追究していき、各種公募展やコンクール等にも応募し、活動の幅を広げていきたいと考えています。

テニス きれいにコートを整備し、5年ぶりの全国選抜大会出場を目指す

麗澤瑞浪中学高等学校 中学高校テニス部 教諭 森本展健

麗澤瑞浪中学高等学校テニス部は、中学生55名、高校生35名で活動しています。

平成30年9月に長良川テニスプラザで行われた「全国選抜高等学校テニス大会岐阜県予選」では、男子が団体戦で優勝し、東海地区予選大会への出場権を獲得することができました。本大会での団体優勝は平成25年来の5年ぶりです。その間長らく準優勝に甘んじてきました。男子個人シングルスと男子個人ダブルスも勝利、完全優勝を果たすことができました。この勢いで東海地区予選も突破し、平成31年3月に福岡県で開催される「全国選抜高等学校テニス大会」への出場も果たしてくれるものと信じています。全国選抜大会への出場となれば、5年ぶり10回目となります。

高校女子も「全国選抜高等学校テニス大会岐阜県予選」では躍進し、準決勝で惜敗したものの団体戦3位の成績をあげることができました。中学生もがんばっています。男子は平成30年10月に行われた「東海私立中学校テニス大会」で男子が団体戦で準優勝し、全国大会に出場することができました。東海地区の強豪校を相手に堂々と攻めのテニスに徹しました。実に5年ぶりの全国大会進出です。中学女子も個人ダブルスで東海大会に出場する選手も出てきました。

本校にはオムコート5面とハードコート3面があり、岐阜県高等学校体育連盟テニス専門部が主催する岐阜県強化合同練習会男子シングルス大会、同女子ダブルス大会、さらには、岐阜県東濃地区高等学校総合体育大会テニス競技会の会場としても利用されています。今回、伊藤青少年育成奨学会から支援を受け、審判台、スコアボード、コートブラシを揃えることができてきました。本校で行われる競技会では、審判台とスコアボードがとても役に立ちました。試合や練習の後は、コートブラシが活躍し、きれいに整備できるようになりました。部員たちも、よりよい環境でテニスに打ち込めることに感謝し、このことが成績へと繋がっていると思っています。これからも応援を、どうかよろしくをお願いします。

かるた 青々とした畳が、さらに「礼」を重んじる心を養った

鶯谷高等学校 競技かるた部 顧問 丹羽麻由子

鶯谷高等学校競技かるた部は、創部5年目ながら、平成29年5月に行われた「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権岐阜県予選」において団体戦優勝し、全国大会に出場しました。これにより部員が大幅に増え、今は男子2名、女子30名で活動しています。

創部当初は、経験者はおらず、札を読む機械は無く、畳さえもありませんでした。部員たちは、教室に正座し、床についた手や膝を真っ赤にしなが、ただただ「誠実にかるたと向き合う」ことを心がけ、必死に練習しました。その成果も実り、平成30年5月に行われた「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権岐阜県予選」では2年連続団体優勝を果たすことができました。7月にかかるたの聖地・滋賀県近江神宮で行われた「第40回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会」団体戦の部では、2回戦で敗退し決勝リーグへの進出はできませんでしたが、個人戦では、B級の部で本校2年生部員が優勝することができました。岐阜県の高校生でB級で優勝しA級に昇格するのは実に5年ぶりのことのようにです。

今年度、伊藤青少年育成奨学会から支援金を受け、平成30年8月に学校近くのホームセンターで畳を購入いたしました。真新しい青々とした畳が届いた時の部員の歓呼の顔は今も忘れません。支援金をいただき、部員たちは、部活動が続けられるのは助けてくれる人がいるからこそ、と気付いたようです。部員たちは自ら話し合い、感謝の気持ちを表現するために畳に上がる前に必ず一礼をすることにしました。そして、競技会場でも、これまでは敗けたとただ泣いて会場を後にする部員たちが、自然と必ず一礼をして畳から下がるようになりました。

平成30年10月に「第6回岐阜県高等学校百人一首かるた選手権大会」が行われました。これは、3年生引退後の新人戦に相当します。大ヒット映画「ちはやぶる」効果により岐阜県でも競技人口が増加しているなかで、1位から4位までを当校部員で独占することができました。

畳を買ってからは、部員も2名増えましたが、皆が畳で練習ができる環境となり、部活動は今までも増して活気にあふれています。部員たちが礼を重んじる姿勢に目覚めたことも含めて感謝いたします。畳に一礼する理由を、代々語り継ぎ、全国大会でも勝ち進められるように精進してまいります。ありがとうございました。



写真を通して表現する楽しさを追究したい

岐阜県立岐阜聳学校 文化部 顧問長 加納和歌子

岐阜聳学校文化部は、美術、手芸、音楽のグループに分かれ、各団員が興味・関心のあることに向かい、自分自身の考えや内面を表現しようと制作に取り組んでいます。

美術グループに所属する部員から写真制作に取り組みたいとの申し出があっても、これまでは、部員が自由に使用できるカメラさえもなく、写真による表現に挑戦することができませんでした。しかし、この度の伊藤青少年育成奨学会から支援金で、生徒が主体的に写真制作に取り組める機材一式を整えることができました。

部員たちは「美しい瞬間」をテーマに制作に取り組んでいます。一眼レフデジタルカメラは、風が吹いた時の細やかな葉の動きや、光と影の加減等の狙った瞬間を捉えることができます。ズームレンズを使えば、普段はあまり気がつかない、目が届かない場所にもレンズを向けることができます。部員たちの表現の幅を広げることが可能になるものと考えています。

部員たちからは、「写真を撮ることが楽しい。もっとカメラについて勉強し表現力を上げたい」という感想が寄せられています。今後は基礎を学びながら、自己の表現について追究していき、各種公募展やコンクール等にも応募し、活動の幅を広げていきたいと考えています。

ダルモマイケル

名古屋市立大学
人文社会学部
現代社会学科1年
(岐阜県立加茂農林高等学校卒業)

新たな挑戦 ～世界観を広げ、誰かを支える～

私は高校時代、地元岐阜県美濃加茂市にて、干し柿の特産品「堂上蜂屋柿」のPR活動や、フィリピンの星型クリスマス飾り「パロル」を地元の素材で再現し地域の人とともにクリスマスイルミネーションイベントを作り上げる活動を通して、地元に戻恩返しをしようと努力してきました。しかし実際には、逆に多くの皆さんに私の活動を支えていただき、感謝に感謝を重ねながら高校を卒業しました。

大学に入學してからは、今度こそ私が誰かを支える「恩送り」をしたいと決意しました。まず自分の世界を広げるために、東京、大阪、石川、新潟を訪れ、多くの人と出会い話を聴きました。また、農業体験をさせていただきました。この旅での経験は外国人児童のキャリア選択に役立つと思いつき、この経験を語ってほしいと決意しました。この活動をするために母校の中学校にお願いしてみたところ、大歓迎していただき、さらに岐阜県庁に活動の紹介もしていただきました。そして、岐阜県内の中学校、高等学校でキャリア教育や国際理解について講話をすることになりました。

実際に、10月25日に美濃加茂市立東中学校、11月16日には岐阜県立東濃高等学校で講話を行いました。また、大学の代表として出場したLINKtopos全国大会(公立大学学生ネットワーク)では、50を超える団体の中から、最優秀賞を受賞することができました。自分の世界観を広げ、「恩送り」の活動をし、「恩送り」の輪が広がっていくように頑張っていきます。

倉地紗妃

岐阜大学
応用生物科学部
生産環境科学植物コース3年
(岐阜県立多治見北高等学校卒業)

植物のカビ毒汚染防除の 研究に取り組む

3年の夏から、講義に加え研究室での活動がはじまりました。私が所属するのは微生物を扱う研究室で、主に植物の病気に関する研究をしています。学部を卒業するまでの研究テーマは「遺伝子ワクチンによるカビ毒汚染抑制技術の開発」です。私が指導を受けている教授の専門分野はカビとカビ毒です。植物の病気には様々なものがありますが、その中でも私の研究対象は厄介なようです。通常は、葉が枯れたり、しおれたり、収量が減ったりと観察すれば病気にかかったかどうかわかります。しかし、この研究対象のカビは、病気にかかったかどうか見た目では判断できません。カビ毒のなかには、強い発がん性物質もあり、気づかずに食べてしまうとガンになってしまうおそれがあるのです。

そのような事態を防ぐために、植物に打てるワクチンによるカビ毒の防除を目指しています。人には医師が、動物には獣医がいますが、植物にはその全般を診られる医師という存在はいません。植物に関しては、私たちが最後の砦なのです。これは植物について大学で専攻し学んでいるからこそ実感できたことでした。

また、3年の夏には、卒業後の進路を意識し、植物防疫所の修業体験(インターンシップ)に参加しました。植物防疫所では、国内の植物に被害をもたらす海外からの病害虫の侵入を未然に防ぐため、海港や空港で検疫を行っています。植物病理に関する研究をしている私に何ができるのか、残り少なくなった学生生活で、今一度、自分を見つめ直し、勉強に集中できる今を無駄にしないよう時間を使おうと思います。

遠藤晃助

富山大学
薬学部薬学科5年
(岐阜県立恵那高等学校卒業)

多くを学んだ薬局と病院とでの 実務実習

薬学部5年生になって薬局と病院とでの実務実習がはじまり、学生生活も大きく変わりました。大学への通学から、病院または薬局への通勤となりました。お昼ごはんも学食で食べられないことから、節約のために早起きをして自分でお弁当を作るようにしました。高校時代に毎日お弁当を作ってくれた親にあらためて感謝しました。

薬局実習では薬を集めるところから始まり、何の薬か、どういう特徴があるかを学びました。患者さんに対しては、問診から服薬指導までを学びました。指導薬剤師からは上手いところとほめられ、100件を超える服薬指導を経験することができました。

病院実習では、薬局とは異なり1つのことを深く追求していくという学習方法でした。前半は注射や抗がん剤の調剤、薬品の情報発信、リスク関係について学びました。特に注射剤や抗がん剤の調剤では薬局では行わない操作ばかりでとても難しかったです。その難しい操作を現職の薬剤師は流れるように行っており、経験の違いを目の当たりにしました。後半からは病棟に行き、担当患者に服薬指導や面談を行いながら、問題を解決できるよう他職種の方と協力しました。他職種の方の視点で情報が得られるのはとても良かったと感じました。実際に担当患者の便秘や痛みといった訴えを、薬剤師としての提案で解決できたことも良かったです。

丹羽里奈

駒澤大学
文学部国文学科2年
(岐阜県立岐阜北高等学校卒業)

「方言」を学問として 捉える難しさに向き合う

駒澤大学では2年生からゼミがはじまり、私は方言を扱うゼミを選択しました。前期はIPA(International Phonetic Alphabet 国際音声記号)を復習し、日本語の発音をどの方言であっても正しく音として表記できるよう演習しました。例えば同じ日本語でも、標準語と出雲地方の方言ではサ行のS音が少し違っていたり、口蓋化が表れる箇所に違いがあったりと、方言は、名詞やイントネーションが違うだけではなく、発音そのものにも違いがあるということがわかりました。音声を採取するときは、実際に出雲地方の話者に指定した単語や文章を話していただき、それを記号に起こします。

音という目に見えないものを正しく捉え記号で表記するにはとても苦労しました。後期からはイントネーションについて学んでいます。音の高低を記号や文字で表すのにもいくつかの種類があり、また、地方それぞれに細かな法則が存在しているなど、学問として方言に向き合うと、とても難しいと感じています。年末には、採取した方言を分析し、発表する機会があります。ゼミ演習の音声書き取りにしっかりと取り組み、表を成功させたいと考えています。

また、本の出版や編集に興味を持つようになったなか、縁があって出版社でアルバイトできるようになりました。目の前で本ができていくことは、とても勉強になります。

電話やメールでのやりとり等、社会人としての一般スキルも身に付けることもでき、ありがたく働かせていただいております。

後藤佑季

慶應義塾大学
商学部商学科4年
(岐阜県立岐阜高等学校卒業)

卒業までの残り時間を大切に、 精一杯学びたい

大学生生活も卒業まで僅かとなりました。4年生にもなるとゼミしかとらない学生が多いのですが、私は、伊藤青少年育成奨学会の奨学生であること、元来、学ぶことが好きな性格もあって、今でも週3日、7コマを受講しています。

4年生になって、日本手話を受講しました。私は聴覚障害者ですが、ろう学校に通学したことはありません。手話は、母親に「ろうの世界も知らないといけない」と通わせてもらっていたサークルで覚えた程度でした。日本の手話には「日本手話」と「日本語対応手話」の2つ違った手話があります。私がサークルで覚えたのは、日本語対応手話と呼ばれるもので、日本語の文章に合わせた手話です。

一方、ろう者は、日本語対応手話ではなく日本手話を使います。日本手話は、日本語とは文法が全く異なる1つの言語です。私は、違いを意識しながら学んでいるのですが、聴覚障害者でも知らないことがたくさんあることに気づきました。日本手話を使うろう者には文法が違う日本語対応手話を読むのはつらい、苦しいという人もいます。

聞こえる者と聞こえない者のはざまにいる私だからこそ、もっと勉強し2つの世界を近づけていけることができたいと思いました。

日本手話以外でも、労働経済学や経済史、社会保障論など幅広く専門的な分野を学んでいます。学ぶことで今まで知らなかった世界が開けたり、広がったりすることがとても楽しいと思いました。4年生もあと僅かですが、残りの時間を有効に使い、精一杯学びを深めて行きたいです。卒論も頑張ります。

岩島呂帆

京都大学
大学院 理学研究科2年生
(中京学院大学付属 中京高等学校卒業)

宇宙線を手がかりに 宇宙の謎に迫る

平成30年2月から、ダークマターと宇宙線にかかる研究に取り組んでいます。その中間報告として平成30年8月に研究会で、9月には物理学会で発表しました。

発表は「宇宙空間に分布している未知の物質の正体を突き止めよう」という内容です。現在、宇宙の膨張の観測などから宇宙空間に存在するエネルギー(≒質量+運動量)の総量が推定されており、一方で天体などの観測から星々の持つエネルギーも計算されています。そして後者は前者の5%しかありません。つまり、既知の物質は宇宙の5%に過ぎないというわけです。残りの95%のうち、4分の1は質量を持っており、「ダークマター」と呼ばれています。その性質を解き明かすことは宇宙の謎、特にその成り立ちを探るためにも重要な手がかりになります。

私の研究では宇宙から降り注ぐ物質である「宇宙線」を手がかりとして、ダークマターの性質を探っています。近年の観測からある種の宇宙線には未知の生成源があることが知られており、それをダークマターに由来するものだと考えています。しかし、他の種類の宇宙線は星々によって説明できてしまうため、特定のもののみを多く放出する必要があります。現在、それを可能にする模型(理論的仮説)を作り、何種類かの宇宙線の生成量を予測して検証したところです。

私は、このまま研究を続けていくか、就職するか悩みましたが、就職することになりました。残り僅かとなった学生生活ですが、他の宇宙線の種類についても卒業までに検証し、これまでの研究が1つの形となるようやりきりたいと考えています。



「温かく人と経営を見つめる82の視点」
発売日：2014/2/12
著者：加藤健治
出版社：プロセスコンサルティング

今回お薦めするのは、図々しいことですが、私の書いた本です。
子供の頃から、「どうしたら明るく楽しい生活ができるのか?」を考えてきました。
そのために、本から学び、人から学び、学ん

だことを実行して、成功と失敗を繰り返してきました。明るく楽しい生活を手に入れるために、試行錯誤を続けてきたわけです。
そして、60歳を前にして振り返ってみると、まあまあ目標を達成することができたと思っています。
この私の試行錯誤の歴史を記したものが、『温かく人と経営を見つめる82の視点』です。私自身が学んで実践してきた、「明るく楽しい生活を手に入れる秘訣」を、自分だけにどめておくことはもったいないと思いためたものです。

若者へのメッセージとして書いた本ですから、できるだけ噛み砕いて説明しました。
多くの読者からは、「ありがたくも「読みやすかった」「一晩で読んでしまいました」との感想を寄せられています。
また、この本はいくつかの企業の朝礼や研修にも使っていただいていますので、就職を控えた学生さんには、有益であると思っています。多くの人が「明るく楽しい生活を手に入れる秘訣」を学んで、日本全体が明るく楽しくなれば、これほどうれしいことはありません。

坪内萌花

天理大学
国際学部地域文化学科
4年生
(岐阜県立岐阜野務高等学校卒業)

今までもこれからも、
ホッケーとともに。

私の大学生活が充実したのようになったのは、小学3年生から続けてきたフィールドホッケーを、伝統と歴史のある天理大学で続けることができたからです。天理大学に進学できたのは、伊藤青少年育成奨学会から奨学金をいただくことができたからです。高校3年生のときの私は、進路を天理大学と決めてはいたものの、一方で授業料全額免除の大学に進んだ方が家計にとっては良いのかもしれないと考えていました。その時、伊藤青少年育成奨学会の存在を知り、奨学生に応募することにしました。経済的な理由で天理大学でなければ、今も後悔していたことと思います。

天理大学ホッケー部は、競技力だけでなく人間力の向上も大切にしており、仲間を思いやる温かい心を監督とコーチから学びました。試合に出る人とそうでない人が同じ気持ちで日本一を目指し、最後まで諦めずに戦い続けることを教えていただきました。他の大学では、試合に出る人とそうでない人とは、温度差が生まれることもあるかと思えます。しかし、当ホッケー部の監督とコーチは、部員一人一人の可能性を常に見てくださいました。当ホッケー部には、「レギュラー」という言葉は存在しません。たとえ試合に出られなかったとしても違う部分で輝けるということ、チームのために自分は何ができるかを考えることが大切だと教えていただきました。

大学4年間で、学生日本一を経験することができました。ドイツ、オランダ、チリに遠征し、国際試合を経験することもできました。さらに、学生チームが社会人チームに勝利するという貴重な経験もできました。

春からは、地元に戻り小学生の頃からの憧れであったチームに入り、大好きなホッケーを続けていきます。そして、世界的にはメジャーなスポーツであるフィールドホッケーを日本でも広め、注目してもらえるスポーツとなるよう今後も頑張っていきます。

大西正記

東京工業大学
大学院 物質理工学院
材料系材料コース 修士2年
(岐阜県立岐阜高等学校卒業)

学業、研究に
打ち込んだ6年間

時間が経つのは早いもので、6年間の学生生活もあと僅かとなりました。

私は昔からのづくりが好きで、高校で進路を決めるときも迷わず工学部を志望しました。工学部といっても、機械、システムからバイオテクノロジー、金融まで多岐にわたります。私は、あらゆる製品の素であり、社会で必ず求められる基盤で、研究をする中でまだ誰も見たことがない可能性を秘めている材料工学を学びたいと考えました。そこで、1年で材料の基礎を学び、2年で学科を選択することができる東京工業大学2類(材料系)に進学しました。

学部の1年から3年までは学業だけではなく、サークル活動やアルバイトにも全力で取り組みました。高校生までの私は、内気かつ面倒くさがりで自分から友人を何かに誘うことはありませんでした。大学では高校と違い決まったクラスはなく、サークルは無数にありました。大学では、誰かに誘われるのを待っていては何もはじまりません。自分から行動しなければ世界は広がっていませんでした。他人と積極的に関わることを心がけることで、より楽しい生活を送れるようになりました。

学部の4年からは研究室の生活が始まりました。研究室は、新奇物質群を計算と実験から研究することをテーマとした、私が配属を希望していたところでした。研究室では苦勞の連続でした。発見されて日が浅いということは、裏を返せば、研究手法が確立しておらず、先がわからない、成果が出るかわからない研究ということ。大変ではありましたが、教授や先輩の指導を受けつつ、徐々に成果が出始め、国内学会、国際学会で成果発表を行うことができました。

春からは、プラントエンジニアとして働きます。プラントエンジニアとは、一言で言えば工場を作る仕事です。国内だけでなく北極から砂漠まで、地球上の全てが舞台となります。大学生活で鍛えてきた積極性と忍耐力、そして向上心を基に社会に出ても努力します。

6年間学業や研究に打ち込むことができたのは、伊藤青少年育成奨学会のおかげです。本当にありがとうございました。私を支えてくださっている多くの人に恥じないよう、今後も精進してまいります。

スクール創立30周年を迎えて

各務原ラグビースクール 事務局 山際靖博

各務原ラグビースクールは昭和63年に開校しました。航空自衛隊岐阜基地の協力のもと、基地が所有するグラウンド(各務原市)で活動を行っています。幼児から小中学生までを対象に、資格を有す指導者がボランティアで教えています。

当スクールは今年で30周年を迎えました。子供たちにとっても記憶に残るイベントを企画したいと考えていたところ、伊藤青少年育成奨学会から支援をいただき、30周年記念事業に関する費用、安全に関する機器やグラウンドの環境整備に関する機材、練習に必要な用具の拡充等、有意義に使用いたしました。

- ① **スクール旗の新調**…30周年を機に新調しました。応援旗と応援幕の2枚です。各務原ラグビースクールの新しいシンボルとなりました。
- ② **30周年記念誌の作成**…30年間の歩みを振り返る記念誌を作成しました。
- ③ **AEDの整備**…運動中の心臓停止に対処できるようAED(自動体外式除細動器)を設置しました。
- ④ **大型テント**…老朽化していたテントを買い替えました。休憩場所や雨天時の避難場所として利用します。
- ⑤ **草刈り機の整備**…草刈り機を整備しました。これからは自衛隊に頼らず、スクールで自主的に草刈りができるようになりました。
- ⑥ **ハンドダミー**…タックル練習時等でケガ防止に必要なハンドダミーを購入しました。手提げ袋に収納できるタイプで、運搬も容易です。



2019年度 スポーツ振興・地域振興
支援事業募集

対象活動	<p>高等学校等クラブ活動 岐阜県内の高等学校、高等専門学校、および特別支援学校在学する複数の生徒によって構成されている部、同好会、愛好会、クラブ、サークル、グループ等の団体活動(団体に限る)</p> <p>スポーツ振興 岐阜県内で行われる次世代を担う青少年の体力向上や人間形成に寄与するスポーツ活動</p> <p>地域振興 岐阜県内で行われる地域社会の健全な発展や人材の育成に寄与する文化、教育、および国際交流等の活動</p>
支援金額	1件あたり上限 100万円
応募方法	申請書ほか指定する書類一式をそるえ当財団事務局あて提出してください。 ※詳細は、当財団ホームページでご確認願います。(2019年2月末日掲載予定)
募集期間	2019年3月1日～4月30日(当日消印有効)
選考の流れ	<p>2019年度支援金募集開始 → 書類受付 → 1次選考(書類審査) → 最終選考 → 最終選考結果通知 → 支援金贈呈式</p> <p>2019年3月～ 2019年4月末日まで 2019年5月 2019年6月 2019年7月上旬 2019年7月中旬</p> <p>※最終選考の採否結果は、書面にて通知いたします。 ※採否理由に関するお問い合わせにはお答えできません。</p>



公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1
株式会社バローホールディングス 多治見本部2階
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認願います。
<http://www.ito-zaidan.or.jp>

発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 株式会社コムラ